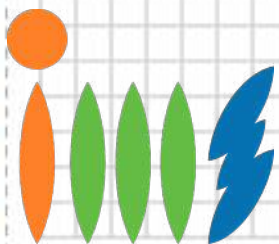


認定看護師更新に ついて

イムス

IMSグループ 板橋中央総合病院

込山 朝美



必要書類をチェック

2010年では・・・以下の通りでした。

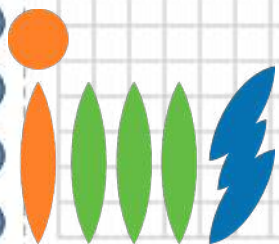
- 申請書類は、一覧表の順番に揃えてクリアホルダーに入れる。
- 推薦書と実践時間証明書は、所属施設に依頼するため、早めに手配する。

注意！！

推薦書と実践時間証明書は提出書類の揃える順番が前後ではないため、封筒を別にしてもらうことを念を押す。

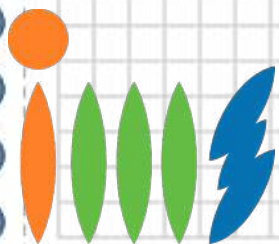
年間活動報告書

- A4サイズで、一年に1枚作成し、計6枚となる。**パソコン作成**の指定がある。
- 実践・指導・相談の3項目に対して、それぞれ活動の目的や意図・具体的な活動内容・評価と課題を簡潔明瞭に記載する。
- 一項目3行くらいしかスペースがない。
- **評価と課題が次年度にどのように活かされているか**、継続した内容で記載する。



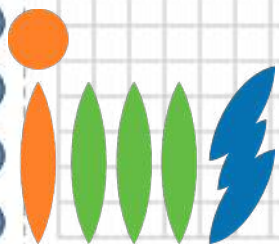
年間活動報告書

- 実践・指導・相談のそれぞれの項目について、活動の目的や意図・具体的な活動内容・評価と課題を簡潔明瞭に記載する。
- 認定看護師に求められる知識と技術、および期待される能力を踏まえた内容にする。
- 期待される能力は、それぞれの分野ごとにチェックリストが出されます。
- 記載する欄は3行くらいしかないので、特に力を注いだことなど、内容を絞って記載する。



年間活動報告書

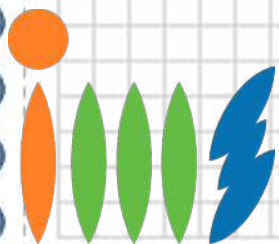
- **実践**：特定の看護分野において、個人、家族及び集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する。
- **指導**：特定の看護分野において、看護実践を通して看護者に対し指導を行う。
- **相談**：特定の看護分野において、看護者に対しコンサルテーションを行う。



認定看護師の知識と技術

- 集中ケアの場合・・・

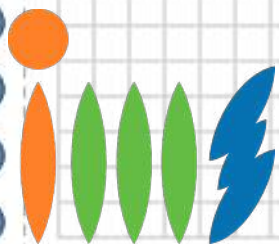
1. 生命の危機状態にある患者の病変変化を予測し、重篤化を回避するための援助
2. 生活者としての視点からアセスメント及び早期回復支援リハビリテーションの立案・実施（呼吸理学療法・廃用予防など、種々のリハビリテーション）



年間活動報告書作成上の注意点

● 集中ケアの場合・・・

1. 【具体的な活動内容】は活動項目を簡単に箇条書きするのではなく、活動の具体的な内容が読み取れるように記載すること。その際、活動のプロセス、工夫した点などがわかるように記載する。
2. 委員会活動、マニュアル作成や基準作成は、「実践」の項目に記載すること。
3. 院内・院外を問わず教育活動は、「指導」の項目に記載すること。
4. コンサルテーションは、「相談」の項目に記載すること。
5. 各活動のうち、特にその年度で重点を置いて取り組んだものには、その箇所に下線を引くこと。
6. 提出前に「実践・指導・相談」の各項目記載内容が「期待される能力」をふまえているか以下のチェックリストを確認すること。



期待される能力チェックリスト

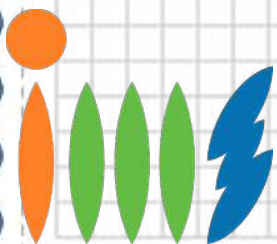
● 集中ケアの場合・・・

1. 生命の危機状態にある患者の病態の変化を予測し、重篤化を回避するための援助ができる。
2. 生命の危機状態にある患者に対し、生活者としての視点から適切なアセスメントを行い、早期から回復を支援するための援助ができる。
3. 自らが役割モデルとなり、看護実践を通して看護者への集中ケア実践指導ができる。
4. 看護職者に対し、相談者が自ら解決の方向を見出すことができるよう支援することができる。
5. 生命の危機状態にある患者およびその家族に対し、より良いチーム医療が提供できるよう、関連する他職種との調整を行うことができ、集中ケアの中でリーダーシップが発揮できる。
6. 集中ケアの質の向上に向けて、自己研鑽できる。
7. 集中ケアにおける倫理的側面を捉え、患者・家族の擁護者として具体的な倫理的配慮ができる。

認定看護師の知識と技術

- 訪問看護の場合・・・

1. 主体性を尊重したセルフケアの能力の向上のためのケースマネジメント
2. 看護技術・知識の提供及び管理・指導
3. 在宅ケアチームの形成とマネジメント



期待される能力

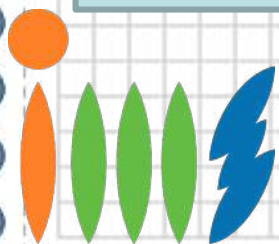
- 訪問看護の場合・・・

1. 医療ニーズの高い在宅療養者・障害者の主体性を尊重し、セルフケア能力を高める対応ができる。
2. 医療機関から在宅（在宅から医療機関）への継続看護を重視して、医療ニーズの高い療養者・障害者の移行期のケースマネジメントができる。
3. 医療ニーズの高い在宅療養者・障害者に対し、専門的看護技術・知識の提供及び管理・指導ができる。
4. 医療ニーズの高い療養者・障害者を支援する在宅ケアチームの形成を行い、リーダーシップを発揮して地域ケア能力を高めることができる。

年間活動報告書

- **認定看護師の知識と技術・期待される能力を踏まえた内容で記載する。**

作成の注意点は、2011年の更新書類がアップされたときに、分野別で説明があると思います。まだ更新がないので、2010年の更新書類には、訪問看護の記載がありません。

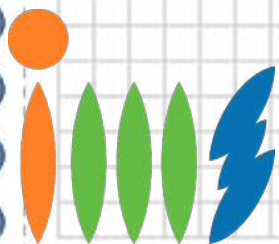


自己研鑽ポイント申告表

- 過去5年間の自己研鑽の実績について「自己研鑽ポイントの換算表」を参照して、取得したポイントを記載する。
- 取得したポイントの件数と証明書類で添付する資料番号を通し番号で記載する。
- 学会・研究会のポイントは「2011年度 学会・研修会リスト」に登録されたものに限る。
- 同一の学会・研修会での二重加算は認められない。
(発表と参加の両方で加算できない)
- 自己研鑽ポイントの合計は50点以上100点以内とする。
100点を超えると書類不備となる。

自己研鑽ポイント申告表

- ポイント照明書類はコピー可であり、用紙に見やすく縮小コピーして貼付する。申告表の番号と照らし合わせて番号を記載する。
- ポイントが加算されなかった場合を考えて、50点にはしない。
- 学会・研究会の参加は、リストに登録されているものであれば点数になるので、うまく活用する。



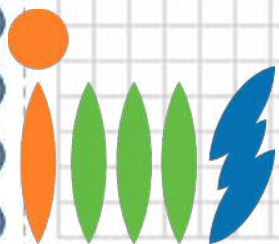
自己研鑽ポイント申告表

- 私の場合は・・・
- 実践活動（社会活動）で2件 $10点 \times 2 = 20点$
- 講師で1件 $10点 \times 1 = 10点$
- 研修プログラムで3件 $2点 \times 3 = 6点$
- 発表で1件 $10点 \times 1 = 10点$
- 座長で1件 $5点 \times 1 = 5点$
- 一般参加で15件 $3点 \times 15 = 45点$
- トータル96点

今回、お話をするにあたり提出した書類を見直して、ここが47点になっていて、さらにトータルも98点と間違えて提出していました。

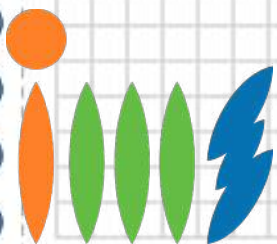


**書類は、第三者に目を通してもらう
ことがベストだと思います！！**



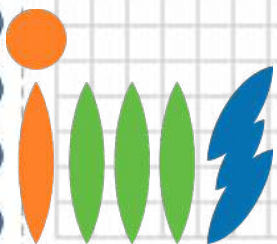
研修プログラム参加報告書・証明

- 活動報告は、各項目について端的にまとめる。
- 認定看護師実習指導の場合は、対象者の概要（分野名・人数）を含めて400字程度で記載する。
- 講師・院内研修指導の報告は、実施した活動の概要を400字程度で記載する。



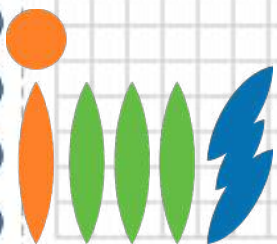
研修プログラム参加報告書・証明

- 講師・院内研修指導は、依頼書を添付する。
院内研修指導は、依頼書がなければ、研修案内のポスターやお知らせでもよい。



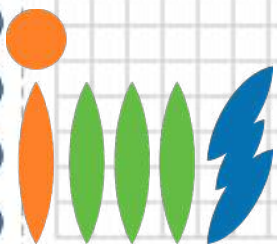
書類

- 認定看護師が増えれば増えるほど、更新時の書類は審査がしやすいように、申請者にとっては、難しいものになっていくのではないのでしょうか。
- 学会参加証明書、講師依頼書、講義内容のまとめなどは、わかりやすいようにまとめておいた方がよいと思います。5年分は結構な量です。



まとめ

- 更新審査申請書類作成上の注意事項が、申請書類とともにホームページ上にアップされるので、注意事項に沿って記載する。
- パソコン作成の指定書類や作成における書式設定（フォントやP + のサイズの指定がある）
- 意味がわからないことは、認定部に問い合わせをする。
- 第三者に作成した書類を確認してもらう。



まとめ

- 推薦書と実践時間証明書は施設に依頼するが、別々の封筒に入れてもらうことを念を押す。
- 推薦書は厳封である。
- 学会・研修会リストは毎年追加されているので、最新版を確認する。

